



前回の広報うつのみやプラス「子育てするなら宇都宮」に対して、25人の市民の皆さんからご意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) あなたが「宇都宮市は子育てしやすい」と感じるのはどんなことですか？

- ▽子育てサロンなど、子どもを連れて遊びに行ける場所が多い(今泉新町・30代)。
- ▽妊婦医療の補助がとても助かった(上野町・20代)。
- ▽「赤ちゃんの駅」の表示が分かりやすくて良い(下栗町)。
- ▽保育園に待たずに入園できたこと。
- ▽転勤が多いため、子育て支援施設が多く、情報収集や仲間づくりがしやすいことが、助かっている(元今泉)。
- ▽外遊びができない時に、ゆうあいひろばに孫を連れて行った。遊具もたくさんありスタッフの皆さんにも良くしてもらった(埴田・60代)。
- ▽子ども向けの講座やイベントが充実している(御幸ヶ原町・30代)。
- ▽子どもの医療費が無料であること(菊水町・30代)。
- ▽子育てサロンが身近にあり、親の息抜きになる(西刑部町・30代)。
- ▽さまざまな店があって買い物に不自由しないし、少し車で移動すれば自然豊かな環境でゆっくり子どもと過ごせる(鶴田町・40代)。

(2) 今以上に宇都宮市を子育てしやすいまちにするには、何が必要だと思いますか？

- ▽子どもたちは地域での行事(体育祭、盆踊り、学校祭など)を経験することで成長していくので、もっと盛り上げてほしい(御幸ヶ原町・70代)。
- ▽スーパーなどにオムツ取りかえ所などの設置を働きかけてほしい(中戸祭町・30代)。
- ▽育児休暇・時短勤務・在宅ワークなど、男性が育児に協力しやすい環境を推進してほしい(30代)。
- ▽障がい児にもやさしい街づくり(歩道の整備、発達障がいに対応できる専門医の配置など)。
- ▽子どもが障がい児になっても、また、障がい児が成人しても、生きていける可能性と働ける可能性があることを、子ども自身も保護者も信じ続けられるような福祉の充実。
- ▽産後ケアのできる医療機関が増えると助かる。県外からの移住者が多く、頼れる人がいないため、必要とする人も多いと思う(御幸ヶ原町・30代)。
- ▽家庭に問題のある子どもに、経済的な援助だけでなく、自信を付けてあげられるような、地域の見守りの仕組みを作れると良い(鶴田町・40代)。

前回の広報うつのみやプラス「子育てするなら宇都宮」の概要



子どもが減る時代 子育てが難しい時代

本市の人口は、昨年の約52万人をピークに今後は減少していくと考えられています。また、時代とともに子育てを取り巻く環境も変化してきており、育児の不安や負担が大きくなっていることから、これまで以上に適切なサポートが

必要な時代となっています。

全国に誇る 子育てしやすい街 宇都宮

そのような中、平成30年には、日本経済新聞社と日経BP社が実施する「共働き子育てしやすい街ランキング2018」において、本市が全国1位に輝きました。

本市では、不妊治療費助成制度や、産後ケア、保育園入園、病気にかかったもしもの時の病児保育に加え、急用やりフレッシュしたい時など、パパママも子どもも困ることの多いタイミングで子育ての手助けとなれるよう、数多くの事業を展開しています。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年に数回編集します。

郵便はがき

料金受取人払郵便



差出有効期間
2020年8月
15日まで
【切手不要】

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。